

愛西市の主な高齢者支援の担い手

生活支援サポーター

① 概要

生活支援サポーター養成講座を修了した者（受講資格は満18歳以上の者で活動に支障がない程度の健康状態である者）が、総合事業の通所型サービスB団体や訪問型サービスB団体に属して活動することが多い。通所型サービスBでは体操や脳トレなどの介護予防サロンの運営、訪問型サービスBでは総合事業対象者の生活支援として、ゴミ出し、弁当の配達、傾聴、買い物代行などを行っている。

② 現状

令和6年度登録者は67名、うち活動人数は52名であり、令和7年度現在の登録者は71名、うち活動人数は56名である。その中でも、令和6年度の実績として、5つの団体で計41名が訪問型サービスBを利用し生活支援を受けている。

生活支援サポーター養成講座を年2回行っており、広報やサロン、老人クラブ等で周知をしているが受講者の確保が難しくなってきている。

運転ボランティア（訪問型サービスD／総合事業）

① 概要

運転ボランティア養成講座を修了した者（受講資格は70歳未満の者で普通運転免許を所持しており、活動に支障がない程度の健康状態である者）が、総合事業対象者に対し病院やスーパーなどへの送迎を行っている。

② 現状

令和6年度登録者は22名、うち活動人数は7名であり、令和7年度現在の登録者は26名、うち活動人数は8名である。訪問型サービスDの団体に属して活動しているボランティアが多い。また、利用者実績については令和6年度は9名、令和7年度現在は11名である。

事故に対する不安もあることから運転ボランティア養成講座の受講者確保が難しくなってきている。

愛西市ボランティアセンター登録の個人・団体ボランティア

① 概要

ボランティアセンターは「ボランティア活動をしたい人」と「ボランティアを必要としている人（団体）」をつなぐ、拠点である。ボランティアが行う活動の内容は、生活支援や楽器の演奏、体操等活動は多岐にわたる。

② 現状

令和6年度登録団体は25団体、個人登録者は5名であり、令和7年度現在の登録団体は25団体、個人登録者は7名である。

ホームページ等で広報しているが十分周知されているとはいえない。また、ボランティア内容として生活支援があり、今年度は2団体が活動している。

老人クラブ

① 概要

各町内で60歳以上の方で組織され、補助金を受けて健康増進、趣味活動、社会貢献活動などの事業を行っている。その為、次にあげる県指定の6項目事業の基準に見合う事業展開をしている。

- ・友愛活動
- ・生活支援活動（会員以外を含む）
- ・清掃・奉仕・環境活動
- ・文化、学習サークル活動
- ・スポーツサークル活動
- ・安全活動

上記6項目のうち、友愛活動及び生活支援活動が高齢者支援に該当する事業である。

② 現状

令和7年度現在愛西市内に85クラブ3,729名が登録している。内訳は佐屋地区39クラブ1,657名、立田地区12クラブ789名、八開地区6クラブ127名、佐織地区28クラブ1,156名である。令和6年度は3,958名の登録であったため、令和7年度は229名の減少となった。年々会員数が減少しており、解散するクラブも増えている。

高齢者支援に関する事業のうち、友愛活動については高齢者の見守り支援をしている団体があり、また、生活支援活動としてはゴミ出しなどの活動をしている団体がある。

見守り訪問員／総合事業

① 概要

在宅のひとり暮らし高齢者等に対して、養成講座を修了した「見守り訪問員」が居宅を訪問し、安否確認を行うとともに、心を傾けてお話しをお聴きする事業。

② 現状

令和6年度の利用者は8名、見守り訪問員登録者数は39名であり、令和7年度現在の利用者は3名、見守り訪問員登録者数は39名である。

シルバー人材センター

① 概要

「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づき、国、市からの支援を受けている公益社団法人。企業や家庭、公共団体などからさまざまな仕事を引き受けて、地域の経験豊かな高齢者の方々に仕事を提供する団体。

② 現状

令和7年度現在の会員数は233名。令和6年度の会員数が219名のため14名増加している。また、令和6年度の依頼受託件数は3,090件、令和7年度現在の依頼受託件数は1,699件である。

内訳について、依頼受託件数の約2～3割が高齢者による依頼となっている。依頼内容は9割が草木の剪定や除草であり、福祉・家事援助サービス（ごみ出し、家の掃除など）は10件未満である。

ご近所付き合い

① 概要

隣近所のほかに、同年代や町内会の付き合いなどから困りごとの相互支援が行われている。また、地区の民生委員が困りごとを支援することもある。

② 現状

時代の流れでご近所付き合いが減っている。愛西市では家が密集している新しい住宅地より、家が離れていても昔ながらの付き合いがある地域の方が、ご近所付き合いが多い。立田・八開地区はご近所付き合いが比較的多く、住民同士が顔見知りになり、高齢世帯も把握している。町内会の付き合いはコロナ禍以降減少がみられる。町内会総会の後に行っていた食事をやめるなど、交流の機会が減っている。

第2層協議体が地区のサロンや老人クラブに声を掛けて住民同士が交流できるイベントを開催するなど、近所付き合いを作り出す役割をしているケースもある。

※協議体とは

地域の住民やボランティア、各種団体等が生活支援コーディネーターとともに、資源（サロンなど）の開発や調整、地域の抱える課題やニーズなどについて話し合い、市民が安心して暮らすことができる地域づくりを目指すための「話し合いの場」である。

第1層協議体は市内全域を対象としている。第2層協議体は日常生活圏域を対象とするため、愛西市では4圏域に設置されている。

